

【付録2】『言海』内容見本(明治22年1月)と、稿本言海、『言海』の語釈の比較

見出し項目・品詞・(見出し項目直下の)漢字列・標は、内容見本に準拠する。記号類はない。下線・斜体は語句の異同(二重下線は本文ママ。「漢ノ通用字」)。{}は字句の削除。〈〉は字句の挿入・訂正。

見出し項目	品詞	漢字列	標	内容見本の語釈	稿本言海の語釈	『言海』の語釈	備考
1	カナリア	名	福島鳥和	[大西洋中Fortunate諸島(福島ト訳ス)中のCanaria島ノ名ニ起ル]小鳥ノ名、初メ大西洋中ノ ^{カナリア} 加拿利亜島ノ産ナルヲ渡シヨリ、人家ニ畜フ、形、雀ヨリ小ク、稍 ^ひ ニ似タリ、尾羽、脚、共ニ長ク、前指三ツ、後指一ツナリ、色ノ白黄ナルモノハ、眼、脚、黒クシテ、 ^嘴 ノミ淡紅ヲ帯ビ、黒キモノハ、眼、脚、 ^嘴 、共ニ黒シ、声、細ソク高クシテ愛スベシ。 <u>金糸雀</u>	[大西洋中Fortunate諸島(福島ト訳ス)中のCanaria島ノ名ニ起ル]小鳥ノ名、初メ大西洋中ノ ^{カナリア} 加拿利亜島ノ産ナルヲ渡シヨリ、人家ニ畜フ、形、雀ヨリ小ク、稍 ^ひ {は}〈 ^力 力〉ニ似タリ、尾、羽、脚、共ニ長ク、 <u>指ハ</u> 、前指、三ツ、後指、一ツナリ、色ノ白黄ナルモノハ、眼、脚、黒クシテ、 ^嘴 ノミ淡紅ヲ帯ビ、黒キモノハ、眼、脚、 ^嘴 、共ニ黒シ、声、細ソク高クシテ愛スベシ。 <u>金糸雀</u>	[大西洋中Fortunate諸島(福島ト訳ス)中のCanaria島ノ名ニ起ル]小鳥ノ名、初メ大西洋中ノ ^{カナリア} 加拿利亜島ノ産ナルヲ渡シヨリ、人家ニ畜フ、形、雀ヨリ小ク、稍 ^ひ ニ似タリ、尾、羽、脚、共ニ長ク、指ハ、前指、三ツ、後指、一ツナリ、色ノ白黄ナルモノハ、眼、脚、黒クシテ、 ^嘴 ノミ淡紅ヲ帯ビ、黒キモノハ、眼、脚、 ^嘴 、共ニ黒シ、声、細ソク高クシテ愛スベシ。 <u>金糸雀</u>	内容見本と稿本言海の語釈はほぼ同一である。稿本言海における仮名遣いの修正(「ひは」から「ひわ」へ)が私版『言海』に反映されていることから、「内容見本→稿本言海→私版『言海』」のプロセスが明らかである。なお、『言海』には「ひは」項が立項されている。校正刷では、「大西洋」の「西」字、「尾、羽」の「、」が活字で組まれていないことから、「オチタ」と校正がある
2	きつね	名	狐和漢	[ねハ美称 ^{ナリ} 古名、きつ。異名、たうめ。たうか。獸ノ名、 <u>ノ善ク知ル所ナリ</u> 、人家ニ近キ、山ナドニ穴居ス、軽捷ニシテ疾ク走り、性甚ダ狡猾ナリ、夜、人家ニ入りテ、鶏ヲ捕リ、食物ヲ竊ム、形、 ^{クチ} 犬ヨリ小ク、 ^{クチ} 喙、尖リ、尾、大ナリ、毛ハ黄赤ニシテ、腋ノ下、白シ。又、黒狐、白狐モアリ。	[ねハ美称]古名、きつ。{獸ノ名}異名、 ^{ヤカン} 野干。たうめ。たうか。〈獸ノ名、〉形犬ヨリ小ク、毛、黄赤ニシテ、腋ノ下、白シ、 ^{クチ} 喙、尖リ、尾、大 ^ク 、軽捷ニシテ疾ク走 ^ル 、人家ニ近キ山ナドニ穴居(ス)、性甚ダ狡猾ニシテ(夜、)人家ニ入りテ、鶏ヲ捕リ、食物ヲ竊ム。又、黒狐、白狐(モ)アリ。	[ねハ美称]古名、きつ。異名、 ^{ヤカン} 野干。たうめ。たうか。獸ノ名、形犬ヨリ小ク、毛、黄赤ニシテ、腋ノ下、白シ、 ^{クチ} 喙、尖リ、尾、大 ^ク 、軽捷ニシテ疾ク走 ^ル 、人家ニ近キ山ナドニ穴居ス、性甚ダ狡猾ニシテ、夜、人家ニ入りテ、鶏ヲ捕リ、食物ヲ竊ム。又、黒狐、白狐モアリ。	稿本言海の上部欄外に「牙ヤカン」の書入がある。校正指示の書入なし。内容見本では「人家に近キ…」という生態に関する語義が先に書かれているが、稿本言海および私版『言海』では、「形、犬ヨリ小ク…」という外形に関する語義が先に書かれている
3	ける	他動(規四、変)	蹴 蹶和漢	[古言、 ^ク 蹴ウ、或ハ、 ^コ 蹴ユ、俗言、 ^ク 蹴エル、又ハ、 ^コ 蹴エル、トシタルノ約] 足ニカヲ入レテ衝キ当ツ。	[古言、 ^ク 蹴ウ、或ハ、 ^コ 蹴ユ、 ^ク ヲ、俗言ニ、 ^ク 蹴エル、又ハ、 ^コ 蹴エル、トシタルノ約] 足ニ{足}カヲ入レテ衝キ ^ツ 遣 ^ル 。 <u>「殿上人、鞠、〈け〉サセテ御覽ズル」血、アユルバカリ、必ズ〈け〉タマヘトイヘバ」此尻、〈けよ〉ト言ハルル相撲ハ」尻〈け〉ツツル角カヲモ」</u>	[古言、 ^ク 蹴ウ、或ハ、 ^コ 蹴ユ、 ^ク ヲ、俗言ニ、 ^ク 蹴エル、又ハ、 ^コ 蹴エル、トシタルノ約] 足ニカヲ入レテ衝キ ^ツ 遣 ^ル 。「殿上人、鞠、けサセテ御覽ズル」血、アユルバカリ、必ズけタマヘトイヘバ」此尻、けよト言ハルル相撲ハ」尻けツツル角カヲモ」	稿本言海、私版『言海』には用例がある。稿本言海においては、用例における見出し項目の該当部が、カタカナから平仮名へ訂正されている。校正刷では、「蹴エル」の誤植(フリガナ「ケ」から「ク」、「エル」から「エル」への訂正)などを校正する
4	コンペイトウ	名	金平糖和	[<u>葡萄牙語</u> 、果類ノ砂糖漬ノ義ナルConfeito(英、Confect)ノ乾訛)乾菓子ノ名、炒リタル ^{ケンシ} 芥子ヲ種トシ、氷蜜ニ ^{コホリミツ} ラ ^ウ どん ^ノ コヲ加 ^エ タルニ入レテ、火ノ上ニテ ^{マロ} 屢 ^マ 転 ^バ スレバ、塗 ^シ 、塗 ^レ テハ乾キシテ、次第二 ^{タマ} 団 ^{ナリ} ナリ、周二細カナル ^ヲ 成 ^ス 、此製 ^シ ナ ^ル ヲ氷 ^{コホリカケ} 掛 ^ト イフ。又、下等ノ製ナルハ、種ヲ氷蜜ニ漬シ、直ニ蒸籠ニテ乾カス、此製ヲ火掛トイフ。	[<u>西班牙語</u> 、果類ノ砂糖(漬)ノ義ナルConfeito。(英語、Confect)ノ訛)乾菓子ノ名、 <u>銅盤ヲ火ニ掛ケ、〈其上ニテ、〉</u> {炒リタル芥子ヲ種トシ}氷蜜ニ ^{コホリミツ} 塵 ^ウ 白 ^コ ヲ加 ^ヘ タル ^モ ニ、炒リタル芥子ヲ種トシテ入レテ、)屢 ^マ 、転 ^バ スレバ、 <u>粒毎ニ塗^シレテ衣ヲ被^キ、乾キテハ塗^シ、塗^レバ乾キシテ、次第二^{タマ}〈^{タマ}団トナリ(テ)、周二細カナル^ヲ成^ス、此製^シナ^ルヲ氷^{コホリカケ}掛^ト云。又、下等ノ製ナル{ハ、種ヲ氷蜜ニ漬シ、直ニ蒸籠ニテ乾カス、此製ナル}ヲ^{ヒガケ}火^{メグリ}掛^ト(イフ)、<u>こほりがけノ条ヲ見ヨ。</u></u>	[西班牙語、果類ノ砂糖漬ノ義ナルConfeito。(英語、Confect.)ノ訛)乾菓子ノ名、銅盤ヲ火ニ掛ケ、其上ニテ、氷蜜ニ塵白ヲ加ヘタルモノニ、炒リタル芥子ヲ種トシテ入レテ、屢、転バスレバ、粒毎ニ塗レテ衣ヲ被キ、乾キテハ塗シ、塗レテハ乾キシテ、次第二団トナリテ、周二細カナル ^ヲ 成 ^ス 、此製ナルヲ氷掛ト云。又、下等ノ製ナルヲ ^{ヒガケ} 火 ^{メグリ} 掛トイフ、こほりがけノ条ヲ見ヨ。	稿本言海における挿入「団」字は、「円」字からの修正である。校正刷では、誤植の修正(「西班牙」の「斑」字、「火ヲ掛ケ」の「ヲ」、「團」字)がある一方、語釈の修正(「塗レバ」から「塗レテハ」)がある
5	さ	発語	/	名詞、又ハ動詞ニツキテ意ナキ発語。「一夜」一衣」一男鹿」一渡ル」	名詞、動詞等ニ冠シテ意ナキ発語。 <u>常ニ、小、狭、真、等ノ字ヲ当ツ。「一夜」一男鹿」一衣」一渡ル」一迷フ」一ノボル」</u>	名詞、動詞等ニ冠シテ意ナキ発語。常ニ、小、狭、真等ノ字ヲ当ツ。「一夜」一男鹿」一衣」一渡ル」一迷フ」	内容見本から私版『言海』では、行組みが2行から3行に増える。また、稿本言海および私版『言海』には古語を表す記号「{」が付されている。校正刷では、用例「一ノボル」を削除する

6	しきしまの枕	敷島	和	<p>[崇神、欽明二帝ノ都セラレシ大和国ノ磯城島ノ地名ニ起ル] (崇神、欽明、二帝ノ都セラレシ大和ノ国ノ磯城島ノ地名ニ起ル) (一) 大和ノ枕詞。「<u>一ノやまとノ国ノ石上ノ振ノ里ニ</u>」又、大和ヲ略シテモイフ。「<u>一ノ、人ハワレジク一ノ、三輪ノ社ノ</u>」(二) 転ジテ、日本ノ枕詞。「<u>一ノ、やまとノ国ハ、事靈ノ所ノ</u>」佐ノ国ゾオシナベテ、今朝ハ霞ノ、一ヤ、やまとモロコシ、春ヲ知ルラム」又、日本ヲ略シテ、「<u>扶カハリタル、イミジウメダタシ、一ヤココノ事トハ見エズ、高麗、唐ニヤトマデ見エケル</u>」(三) 転ジテハ、一ノ道トツツケテ、和歌ノ道ノ事トス、即チ、一ノ和歌ノ道ノ略ナリ。「<u>一ノ道モ、盛リニ起リテコロレミゾ、人ノ国ヨリ、伝ハラデ、神代ヲ承ケシ、一ノ道</u>」</p>	<p>[崇神、欽明、二帝ノ都セラレシ大和ノ国ノ磯城島ノ地名ニ起ル] (崇神、欽明、二帝ノ都セラレシ大和ノ国ノ磯城島ノ地名ニ起ル) (一) 大和ノ枕詞。「<u>一ノやまとノ国ノ石上ノ振ノ里ニ</u>」又、大和ヲ略シテモイフ。「<u>一ノ、人ハワレジク一ノ、三輪ノ社ノ</u>」(二) 転ジテ、日本ノ枕詞。「<u>一ノ、やまとノ国ハ、事靈ノ所ノ</u>」佐ノ国ゾオシナベテ、今朝ハ霞ノ、一ヤ、やまとモロコシ、春ヲ知ルラム」又、日本ヲ略シテ、「<u>扶カハリタル、イミジウメダタシ、一ヤココノ事トハ見エズ、高麗、唐ニヤトマデ見エケル</u>」(三) 転ジテハ、一ノ道トツツケテ、和歌ノ道ノ事トス、即チ、一ノ和歌ノ道ノ略ナリ。「<u>一ノ道モ、盛リニ起リテコロレミゾ、人ノ国ヨリ、伝ハラデ、神代ヲ承ケシ、一ノ道</u>」</p>	<p>[崇神、欽明、二帝ノ都セラレシ大和ノ国ノ磯城島ノ地名ニ起ル] (崇神、欽明、二帝ノ都セラレシ大和ノ国ノ磯城島ノ地名ニ起ル) (一) 大和ノ枕詞。「<u>一ノやまとノ国ノ石上ノ振ノ里ニ</u>」又、大和ヲ略シテモイフ。「<u>一ノ、人ハワレジク一ノ、三輪ノ社ノ</u>」(二) 転ジテ、日本ノ枕詞。「<u>一ノ、やまとノ国ハ、事靈ノ所ノ</u>」佐ノ国ゾオシナベテ、今朝ハ霞ノ、一ヤ、やまとモロコシ、春ヲ知ルラム」又、日本ヲ略シテ、「<u>扶カハリタル、イミジウメダタシ、一ヤココノ事トハ見エズ、高麗、唐ニヤトマデ見エケル</u>」(三) 転ジテハ、一ノ道トツツケテ、和歌ノ道ノ事トス、即チ、一ノ和歌ノ道ノ略ナリ。「<u>一ノ道モ、盛リニ起リテコロレミゾ、人ノ国ヨリ、伝ハラデ、神代ヲ承ケシ、一ノ道</u>」</p>	<p>稿本言海では、見出し項目を「しきしま」とする。これは、「一の」の字句を挿入するも、削除されている。私版『言海』の見出し項目は「しきしま」。(なお、後の版では「しきしまの」とするものもある。ちくま学芸文庫版(628刷、昭和6年3月)が該当する。) 行組みが5行から12行に増える。また、稿本言海では、語義(一)の用例「一ノやまとノ国ノ」、「一ノ、人ハ」の「一ノ」を一度削除した上で「イキ」と校正する。校正刷では、誤植の訂正(品詞「名」から「枕」、用例の鉤括弧の挿入)がある</p>
7	すずむし	名	鈴虫	<p>[声ヲ以テ名ツク](一) [古ヘ言ヘルハ、今ノまつむしニテ、其声、<u>チンチロリ</u>ト聞ユルモノ。(まつむしノ条ヲ見ヨ)(二) 今イフハ、こほろぎノ属。色黒ク、松虫ニ似テ、首小ク、尻大ク、背、スポク、腹、黄白ナリ、秋ノ夜、鳴ク、其声、<u>ソソソ</u>ト聞ユ、<u>鐘ニ</u>音ヒテ声ヲ愛ス。古名、まつむし。(まつむし、すずむしノ称、古今、全ク相反セリ) 金琵琶</p>	<p>[声ヲ以テ名ツク] 虫ノ名、古歌ニイヘリ、即チ今ノまつむしニテ、其声、<u>ちんちろり</u>ト聞ユルモノ、まつむしノ条ヲ見ヨ。(すずむし、まつむし、ノ名、古、今、相反セリ) 金鐘兒</p> <p>虫ノ名。古名、まつむし。こほろぎノ属、色黒ク、松虫ニ似テ、首、小ク、尻、大ク、背、スポク、腹、黄白ナリ、秋ノ夜鳴ク、其声<u>ソソソ</u>トイフガ如シ、畜ヒテ声ヲ愛ス。金琵琶</p>	<p>[声ヲ以テ名ツク] 虫ノ名、古歌ニイヘリ、即チ今ノまつむしニテ、其声、<u>ちんちろり</u>ト聞ユルモノ、まつむしノ条ヲ見ヨ。(すずむし、まつむし、ノ名、古、今、相反セリ) 金鐘兒</p> <p>虫ノ名。古名、まつむし。こほろぎノ属、色黒ク、松虫ニ似テ、首、小ク、尻、大ク、背、スポク、腹、黄白ナリ、秋ノ夜鳴ク、其声<u>ソソソ</u>トイフガ如シ、畜ヒテ声ヲ愛ス。金琵琶</p>	<p>内容見本の一項目と、稿本言海において同一の二つの見出し項目の語釈が概ね一致する。なお、稿本言海および『言海』の前者の見出し項目には、「【】」の記号が付されている。校正指示の書入は特になし(=部分のみ)</p>
8	せめて	副	/	<p>[<u>責メテノ意カ</u>](一) [<u>逼リテ。セメヨセテ。ツキツメテ。切ニ。</u>「<u>最一恋シキ時ハ人ヲ恋ヒ、一涙ノコボルレバ</u>」(二) <u>十分ナラズハ、強ヒテニ三分ナリトモ、已ムコトヲ得ズバ。</u></p>	<p>[<u>迫メテ、ノ意ヨリ転ズ、迫ム、ノ条ヲ見ヨ</u>](一) [切ニ。強ヒテ。無理ニ。「<u>御涙モコボレヌベキヲ、一紛ラハサセ給ヒテ</u>」一見カクシ給フ御マジリコソ、ワヅラハシケレトテ許サレ給ハザリケル御暇ヲ、一罷出給ヒニシ、云云、許サレザリシヲ、強ヒテ罷出ツルナリト申シカバ」(二) [転ジテ、甚シク。切ニ。「<u>高麗ノ紙ノ薄様ダチタルガ、一ナマメカシキヲ、此ノ物好ミスル人々、心ミムトテ</u>」色ノ、一青カリケレバ、一青ツネノ君トゾ、<u>殿上君達ハ、ツケテ笑ヒケル</u>」(三) 又、転ジテ、願フ事叶ハヌニ、尚、強ヒテ、<u>十二ニツツナリトモ。セメテノ事ニ。</u>已ム事ヲ得ズバ。「<u>斯クテ、隠ビテ逢ヒ給ウケルニ、云云、院ニテハ、逢フマジケレバ、一今宵ハナ参リ給ヒト止メケリ</u>」世ニ漏ルル、ウキ名ヲ一、限リナク、ツツミシ人ニ、<u>知ラセズモガナ</u>」セメテナホ、茂ル木蔭ニ、宿ラバヤ、青葉モ花ノ、跡ナラヌカハ」</p>	<p>[<u>迫メテ、ノ意ヨリ転ズ、迫ム、ノ条ヲ見ヨ</u>](一) [切ニ。強ヒテ。無理ニ。「<u>御涙モコボレヌベキヲ、一紛ラハサセ給ヒテ</u>」一見カクシ給フ御マジリコソ、ワヅラハシケレトテ許サレ給ハザリケル御暇ヲ、一罷出給ヒニシ、云云、許サレザリシヲ、強ヒテ罷出ツルナリト申シカバ」(二) [転ジテ、甚シク。切ニ。「<u>高麗ノ紙ノ薄様ダチタルガ、一ナマメカシキヲ、此ノ物好ミスル人々、心ミムトテ</u>」色ノ、一青カリケレバ、一青ツネノ君トゾ、<u>殿上君達ハ、ツケテ笑ヒケル</u>」(三) 又、転ジテ、願フ事叶ハヌニ、尚、強ヒテ、<u>十二ニツツナリトモ。セメテノ事ニ。</u>已ム事ヲ得ズバ。「<u>斯クテ、隠ビテ逢ヒ給ウケルニ、云云、院ニテハ、逢フマジケレバ、一今宵ハナ参リ給ヒト止メケリ</u>」世ニ漏ルル、ウキ名ヲ一、限リナク、ツツミシ人ニ、<u>知ラセズモガナ</u>」セメテナホ、茂ル木蔭ニ、宿ラバヤ、青葉モ花ノ、跡ナラヌカハ」</p>	<p>行組みが4行から15行に増える。内容見本にある用例は、稿本言海および私版『言海』「せむ(迫)」項にある。「せむ」項では、「(せめて)ノ條、見合ハスベシ」とある。稿本言海の上部欄外には、「雅ノちかきまもり」「せめて我し、近キ衛リノ程ダニモ、御階ノ桜散ラサズモガナ」の書入がある。『雅言集覽』「ちかきまもり」項には、用例に『新後拾遺和歌集』巻第二・春歌下所取の二条為定歌「せめてわがちかきまもりのほどだにもみはしの櫻ちらさずもがな」がある。なお、稿本言海においては、語義(二)の用例にある二つの「青」字が、それぞれ「青」「青」と異なる。語義(三)の用例は「青」字。「せい(青一)」の熟語の書き方から察するに、併用していたか。『言海』では、三字すべて「青」字。校正指示の書入なし</p>
9	たち	接尾	達	<p>[立ノ意カ] 人ニ係ル名詞ニ添ヒテ、其ノ輩ヲ統ベイフ接尾語。「<u>皇子一親一友一公一</u>」</p>	<p>[立ノ意カ] 人ニ係ル名詞ニ添ヒテ其輩ヲ統ベイフ接尾語。「<u>皇子一公一友一親一</u>」人一」等</p>	<p>[立ノ意カ] 人ニ係ル名詞ニ添ヒテ其輩ヲ統ベイフ接尾語。「<u>皇子一公一友一親一</u>」人一」等</p>	<p>校正指示の書入なし</p>

10	つく	他動	突 衝	和漢	(一)一氣ニ 搯 シ遣リテ当ツ。「槍ニテー」「拳ニテー」(二)棒ニテ突キテ鳴ラス。「鐘ヲー」撞(三)杵ニテ突キ碎ク。ウスツク。「麦ヲー」餅ヲー」 搗 搗(四)土石ヲ突キ固メテ積ミ建ツ。キヅク。「石垣ヲー」竈ヲー」 築 悪対ヲー。罵ル。〇息ヲー。呼吸ス。〇諺ヲー。偽ル。〇反吐ヲー。嘔ク。	(一)一氣ニ 搯 シ遣リテ当ツ。「槍ニテー」「拳ニテー」(二)棒ノ末ヲ當テテ鳴ラス。「鐘ヲー」撞(三)杵ノ末ニ當テテ碎ク。ウスツク。「麦ヲー」餅ヲー」 搗 搗 搗 搗(四) 炊 ク。「食ヒト食ヒタル人人モ、子共モ、我モ、云云、物ヲつきマドヒ ^ウ (合)ヒテ、死ヌベクコソアレ」反吐ヲー」 嘔 嘔 嘔 〇息ヲー。呼吸ス。〇諺ヲー。偽ル。 〇悪対ヲー。罵ル。	(一)一氣ニ 押 シ遣リテ当ツ。「槍ニテー」「拳ニテー」(二)棒ノ末ヲ當テテ鳴ラス。「鐘ヲー」撞(三)杵ノ末ニ當テテ碎ク。ウスツク。「麦ヲー」餅ヲー」 搗 搗 搗 搗(四)吐ク。「食ヒト食ヒタル人人モ、子共モ、我モ、云云、物ヲつきマドヒ合ヒテ、死ヌベクコソアレ」反吐ヲー」 〇息ヲー。呼吸ス。〇諺ヲー。偽ル。 〇悪対ヲー。罵ル。	後者の見出し項目「つく」は、見出し項目直下の漢字列が「築」字。校正刷では、前者に「餅」字から「餅」字への修正指示、誤植の訂正(「人人モ、子」の「。」が抜けている)、小見出しに「四分一」という幅の調整がある。後者には、誤植の修正(「(規。一)」が「二」となっている)がある。
11	テラ	名	寺	和漢	[朝鮮古言、でるノ転、今言、ちら]仏ヲ祀リ、僧モ此ニ居リテ、仏教ヲ修スル 処 。	[朝鮮古言、でるノ転、今言、ちら]仏ヲ祀リ、僧モ此ニ居リテ、仏教ヲ修スル 家 。寺院。精舎。梵刹。伽藍。	[朝鮮古言、でるノ転、今言、ちら]仏ヲ祀リ、僧モ此ニ居リテ、仏教ヲ修スル家。寺院。精舎。梵刹。伽藍。	校正指示の書入なし
12	ななつ	数	七	和漢	ヨツ ミツ 四ト三ト合ハセタル 数 。八ニ一ツ足ラヌ 数 。七。	シチ 六ニ一ヲ加ヘタル 数 。七。	シチ 六ニ一ヲ加ヘタル 数 。七。	校正指示の書入なし
13	なまり	名	鉛	和漢	[なま ハ生ニテ 柔キ意カ] かね ノ名、色、 淡藍 ニシテ、水ヨリ重キコト、十一倍半 ナリ 、 諸金 ノ中ニテ、最モ柔ク、最モ撓メ易ク、又最モ 鎔 ケ易シ。	[なま ハ生ニテ 固カラヌ意] 古クハ、 黒なまり 。金類ノ一、色、 薄藍 ナリ、水ヨリ重キコト十一倍半アリ、諸金ノ中ニテ、最モ柔ク、最モ撓メ易ク、又最モ 鎔 ケ易シ。又 錫 ヲ、古クハ、 白なまり トイヘリ。	[なま ハ生ニテ、 固カラヌ意] 古クハ、 黒なまり 。金類ノ一、色、 薄藍 ナリ、水ヨリ重キコト十一倍半アリ、諸金ノ中ニテ、最モ柔ク、最モ撓メ易ク、又最モ 鎔 ケ易シ。又、 錫 ヲ、古クハ、 白なまり トイヘリ。	校正刷では、誤植の修正(「黒なまり。」の「。」を「。」とする)がある。
14	にひ	接頭	新	和漢	新ナル。「一参リ」一枕」一島守」	シマモリ サキモリ 新 ラシキ。アラタナル。「一島守」二 防人 」一参リ」一枕」	シマモリ サキモリ 新 ラシキ。アラタナル。「一島守」一防人」一参リ」一枕」	校正指示の書入なし
15	ぬ	助動	畢	和漢	[往ヌノ転ト云] 事 ノ全ク 畢 リタル意ヲ示ス 助動詞 。(此語、 多クハ自動詞ニ付ク)「行キー」去リー」 戻 キー」	[往ヌ、ノ(転)<約ト云>] 過去ノ意ヲイフ助動詞 、粗、つ、又、たり、 ニ同ジ 。「行キー」去リ(失セ)ぬる」有(リ)なム」	[往ヌ、ノ約ト云]過去ノ意ヲイフ助動詞、粗、つ、又、たり、 ニ同ジ 。「行キー」失セぬる」有りなム」	校正刷では、誤植の修正(「たり、」の「。」を落とす)がある。また、「粗」字を丸で囲むが、活字の組みかえの指示か
16	ねぎ	名	葱	和漢	[ね ハ根ヲ賞スル故ノ称] 本名、葱。一音ナレバ一文字ト モイ フ。蔬菜ノ名、葉円ク長ク、内、空クシテ、末、尖リ、緑ニシテ臭ミアリ、夏、茎ヲ出シテ、小白花簇リ開ク、後ニ黒キ実ヲ結ブ、葉、四時、枯レズ、葉ノ本、根ノ白キ部ヲ常食トス。ネブカ。	本名、葱。一音ナレバ一文字ノ 異名モアリ 、根ヲ賞スレバ「ルニ 因 テ」 根 トイフ、蔬菜ノ名、葉、円ク長ク、内、空クシテ、末、尖リ、緑ニシテ臭ミアリ、夏、茎ヲ出シテ、小白花、簇リ開ク、後ニ黒キ実ヲ結ブ、葉、四時枯レズ、 根ニ深く培 ヒテ、葉ノ本、根ノ上、 土中ニアリテ 白キ部ヲ常食トス。 一名、ネブカ。 〔故ニ 根深ノ名モアリ 。〕	本名、葱、一音ナレバ一文字ノ 異名モアリ 、根ヲ賞スルニ因テ、 根 トイフ、蔬菜ノ名、葉、円ク長ク、内、空クシテ、末、尖リ、緑ニシテ臭ミアリ、夏、茎ヲ出シテ、小白花、簇リ開ク、後ニ黒キ実ヲ結ブ、葉、四時枯レズ、 根ニ深く培 ヒテ、葉ノ本、根ノ上、 土中ニアリテ 白キ部ヲ常食トス。故ニ 根深ノ名モアリ 。	校正刷では、読点の修正(「葱。」の「。」を「。」とする。「円ク、」の「。」を「ル」がある)
17	ばうじやくぶじん	句	旁若無	和漢	[晋ノ王猛伝、捫レ蝨而言、一]傍二人無キガ若シ。(人前ヲ憚ラズ、己ガママニ 振舞 フ意)	[晋ノ王猛伝、捫レ蝨而言、一]傍二人無キガ若シ。(人前ヲ憚ラズ己ガママニ 振舞 フ意)	[晋ノ王猛伝、捫レ蝨而言、一]傍二人無キガ若シ。(人前ヲ憚ラズ己ガママニ 振舞 フ意)	稿本言海および『言海』の見出し項目直下の漢字列は「傍若無人」。校正刷では、誤植の修正が3箇所ある
18	ひ	名	檜	和	[摩 レバ火ヲ 登 スル故ノ名ト云] 常ニ、ひのきトイフ。樹ノ名、幹、直ク高ク聳エテ、大木トナル、葉ハ平ニ布キテ 生 ジ、面、緑ニシテ、背ニ白脈アリ、春ノ末、細小ノ花ヲ開キテ 穂 実ヲナス、杉ノ実ニ似テ、刺無シ、秋ノ末ニ熟シテ、中ニ子アリ、大サ麦ノ如シ。材、堅密ニシテ美シク且、久シク水湿等ニ堪フルヲ以テ、建築造船等ニ必用ノ良材トシ、最モ貴重セラル。 扁柏	[火ノ義、此ノ木ニテ 鑽 レバ火ヲ得、故ニ名トス] 常ニ、ヒノキ。樹ノ名、幹、直ク高ク聳エテ、大木トナル、葉ハ、平ニ布キテ 茂 リ、面、緑ニシテ、背ニ白脈アリ、春ノ末、細小ノ花ヲ開キ、 穂 実ヲナス、杉ノ実ニ似テ、刺無シ、秋ノ末ニ熟ス、中ニ子アリ、大サ麦ノ如シ。材、堅密ニシテ美シク、且、久シク水湿等ニ堪フルヲ以テ、建築造船等ニ必用ナル良材トシ、最モ貴重セラル。 扁柏	[火ノ義、此ノ木ニテ 鑽 レバ火ヲ得、故ニ名トス] 常ニ、ヒノキ。樹ノ名、幹、直ク高ク聳エテ、大木トナル、葉ハ、平ニ布キテ 茂 リ、面、緑ニシテ、背ニ白脈アリ、春ノ末、細小ノ花ヲ開キ、 穂 実ヲナス、杉ノ実ニ似テ、刺無シ、秋ノ末ニ熟ス、中ニ子アリ、大サ麦ノ如シ。材、堅密ニシテ美シク、且、久シク水湿等ニ堪フルヲ以テ、建築造船等ニ必用ナル良材トシ、最モ貴重セラル。 扁柏	校正刷では、誤植の修正(「面、緑ニシテ」の「。」がない)がある

19	へ	辞	/	/	[方ノ意ナラム]第一類ノ手爾波、方向ヲ示スモノ。(地位ヲイフニト別ツ)「 <u>裏一越ク</u> 」前一押ス奥一深シ」	[方ノ意ト通フナラム]第一類ノ手爾波、方向ヲ示スモノ。(地位ヲイフニト別ツ)「 <u>後一遣ル</u> 」前一押ス奥一深シ」 <u>西一長シ</u> 」	[方ノ意ト通フナラム]第一類ノ手爾波、方向ヲ示スモノ。(地位ヲイフニト別ツ)「 <u>後一遣ル</u> 」前一押ス奥一深シ」 <u>西一長シ</u> 」	校正指示の書入なし
20	ぼら	名	鯉	和漢	魚ノ名、早春ヨリ溝渠等ノ淡水ニ生ジ、後、川ニ出デテ海ニ入ル、成長ニ随ヒテ、諸国方言種々ナリ、東京ニテハ、初生ノ一吋許ナルヲ <u>を</u> ぼコトイヒ、二吋許ナルヲ <u>洲走</u> トイヒ、頗ル長ジタルヲいなトイヒ、河海ニ出デ、年ヲ歴テ大ナルハ一ナリ、其更ニ大ナルヲとどトイフ、身円ク、頭扁クシテ、色黒ク、腹白シ、水中ヲ連行シ、能ク跳リテ、水ノ上ニ出ヅ。	[形ノ円廊ナル故ノ名カ]又、ナヨシ。 ^{ミヤウギテ} 名吉。魚ノ名、早春ヨリ、溝渠等ノ淡水ニ産ジ、後、川ニ出デテ、海ニ入ル、成長ニ随ヒテ、諸国、方言、種々ナリ、東京ニテハ、初生ノ一吋許ナルヲ、 <u>を</u> ぼコトイヒ、二吋許ナルヲ、 <u>洲走</u> トイヒ、頗ル長ジタルヲ、いなトイヒ、河海ニ出デ、年ヲ歴テ大ナルハ、ぼらナリ、其ノ更ニ大ナルヲ、とどトイフ、身円ク、頭平タクシテ、色黒ク、腹白シ、水中ヲ連行シ、能ク跳リテ、水ノ上ニ出ヅ。	[形ノ円廊ナル故ノ名カ]又、ナヨシ。 ^{ミヤウギテ} 名吉。魚ノ名、早春ヨリ、溝渠等ノ淡水ニ産ジ、後、川ニ出デテ、海ニ入ル、成長ニ随ヒテ、諸国、方言、種々ナリ、東京ニテハ、初生ノ一吋許ナルヲ、 <u>を</u> ぼコトイヒ、二吋許ナルヲ、 <u>洲走</u> トイヒ、頗ル長ジタルヲいなトイヒ、河海ニ出デ、年ヲ歴テ大ナルハ、ぼらナリ、其ノ更ニ大ナルヲ、とどトイフ、身円ク、頭平タクシテ、色黒ク、腹白シ、水中ヲ連行シ、能ク跳リテ、水ノ上ニ出ヅ。	校正刷では、活字の組みかえ(「ぼら」の「ぼ」字に「フトゴマ」の指示。「頭」字に「カヘル」の指示)、誤植の修正(「ナヨシ。」の「。」を「、」とする)がある
21	また	接	又	和漢	^{マタ} 「 <u>又ニ同ジクテ、ニツニ渉ル意ナラム</u> 」ソノウヘニ。 <u>並ニ</u> 。「 <u>詠ミテ一書ク</u> 」山一川」	ソノウヘニ。 <u>ソノホカニ</u> 。 <u>イマヒトツ</u> 。 <u>ナラビニ</u> 。「山一川」 <u>食ヒテ一飲ム</u> 」 <u>〇一ノ名</u> 。 <u>別ニ(更ニ)アル名</u> 。 <u>〇一ノ年</u> 。 <u>翌年</u> 。 <u>〇一ノ日</u> 。 <u>翌日</u> 。	ソノウヘニ。ソノホカニ。イマヒトツ。ナラビニ。「山一川」食ヒテ一飲ム」 〇一ノ名。別ニアル名。〇一ノ年。翌年。〇一ノ日。翌日。	稿本言海および『言海』の「また(亦)」項には、内容見本にある語原説と類似する「[又ノ義ニテ、ニツニ渉ル意カ]」がある。校正指示の書入なし